



ステロイドの副作用

秋になり全身のかさかさ肌が多くなっています。又、アトピー性皮膚炎の方は、ブタクサの花粉で症状が悪化している方が増えています。かさかさ肌体質の方は、保湿剤をお風呂上りに塗るようお勧めします。今回は患者さんからの要望があり、ステロイドの副作用を取り上げてみましたので参考にしてください。(院長 森川貴仁)

シリーズ最新医療

ステロイドの副作用

皮膚外用薬の中で、最も多く使用されているステロイド剤(副腎皮質ホルモン剤)の副作用について今回はお話しします。多くのメディアや書籍でステロイドの副作用が取り上げられ、患者さんも何を信用していないのかわからない状態だと思えます。ステロイドが心配で使用したくないという患者さんでも、ステロイドとはいったいどういうものなのか、どのような副作用があるのか、今出ている症状はステロイドの副作用なのかということについて、具体的な理解はなく、漠然と恐ろしいものと思われている事が多々あります。副作用について列挙されている本は多く見られますが、具体的にどの様に使用したら副作用が出ないのか、どの様な塗り方が逆に良くないのか、できるだけわかりやすくお話ししたいと思います。

ステロイドはそもそも体の中で作られている

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、そもそもステロイドは腎臓の上についている副腎と言われる臓器で作られているものです。それを人工的に作成して皮膚に塗ったり、内服しているわけです。つまり健康な人でも血液中に存在して

いるわけです。この点をまず理解してください。副腎で作られるステロイドホルモンも沢山種類がありますが、病院で処方されるステロイドと言えば、一般的には副腎皮質ステロイドのことです。正常な人体では以下にあげるようなあらゆる代謝、恒常性の維持に働く人体にとつて欠かすことのできないホルモンです。

- (1) 糖質代謝作用：肝臓のグリコーゲン生成と糖新生の促進、脂肪組織と筋肉では脂肪分解の促進、タンパク分解の増大を起こします。
- (2) 抗炎症・抗アレルギー作用：炎症による毛細血管拡張、毛細血管透過性の亢進などを阻止します。抗原抗体反応の遮断
- (3) リンパ球・好酸球減少作用：リンパ球数を減らします。好酸球(白血球の一種)減少作用、赤血球、好中球(白血球の一種)増加作用もあります。
- (4) 男性ホルモン様作用：筋力低下を改善します。
- (5) 中枢神経系に対する作用：気分を高揚させたり、うつ症状を呈します。

以上のような作用のうち、薬として利用する場合は主に(2)の抗炎症・抗アレルギー作用を目的に使用しています。

副作用も皮膚局所の副作用と全身の副作用に分けられる

ステロイド外用薬についての副作用を考える際、局所の副作用と全身の副作用に分けて考える必要があります。

ステロイド外用薬はできるだけ皮膚のみに効くように日々研究されていますが、1日に塗る範囲、或いはステロイド外用薬の強さにより全身の副作用も考慮しなければなりません。しかし、今までの経験では、**全身の副作用は外用薬でまず出現することはありません。**一番強いステロイドを毎日全身に1ヶ月塗り続けられれば出現する可能性はありますが、その様な治療をする皮膚科は無いでしょう。**皆さんが全身の副作用を気にしなければならぬのは、飲み薬でステロイドを使用する場合です。**

それでは、局所の副作用では何を注意する必要がありますでしょうか。ここで、局所の副作用を列挙するつもりはありません。皆さんに注意していただきたい代表的な副作用を以下に上げてみます。

毛細血管が拡張してくる

特に子供の頃から、顔にステロイドを塗り続けた場合、両側頬の毛細血管が透けて見えてくる場合があります。これは、皮膚がステロイドの作用で薄くなってくるためです。ここで注意していただきたいのが、ステロイドを顔に塗ると言っているわけではなく、ステロイドの強さと、塗る期間に気

をつけていただきたいという事です。大体の目安として 群(Gr) クラスのステロイドで1ヶ月以上**同じ場所**に塗り続けるのは注意が必要です。もちろん一度症状が改善したためステロイドを中止し、数日後に症状が出たため同じ部位、或いは違う部位に外用を始める場合は、新たに塗り始めてから1ヶ月とお考えください。顔以外の部位では、皮疹が治っているのにステロイドを塗り続けなければまず毛細血管が拡張して行くことはありませぬ。毛細血管拡張はステロイド中止後もなかなか消失しないことが多いです。

多毛

多毛は多かれ少なかれ、アトピー性皮膚炎等でステロイドの外用を続けていると出現してくる場合があります。これはステロイドの男性ホルモン様作用によるものです。ステロイドを中止していけば改善してくる場合が多いです。

よく言われるリバウンドについて

よくステロイドを塗ると、症状が一時改善しても、薬を中止後に前の状態よりも悪くなると思われる場合があります。(リバウンド)リバウンドについて注意していただきたいことを列挙します。

(1) リバウンドが起こりやすいのは、塗り薬より、飲み薬でステロイドを使用する場合です。

(2) 皆さんがリバウンドと思われるてくる皮疹は、殆ど皮疹の再発あるいは、治療不十分である場合が多い。

(3) リバウンドを起こさないようステロイドを止めていく方法があること

以上について次号でお話したいと思います。又、よくステロイドの副作用と間違われる症状についても詳しくお話ししたいと思います。

(院長 森川 貴仁)

シリーズ医療保険情報

気になる治療費 一こんな時はいくらかかる？

こちらのコラムでは治療費や会計など保険診療のお話を掲載しております。

前回までいろいろなお話をしてみましたが、今回は患者さまが医療機関にかかった時の「こんな場合はいつたいいくらかかるの？」にお答えすべく、普段の診察のなかで実際にある事例を取り上げてみたいと思います。どうぞ今後のご参考にして下さい。

最初に医師が発行する文書についてのお話です。皆様は病院や診療所で、「診断書」を書いてもらったことがありませんでしょうか？あるいは別の病院に「紹介状」を書いてもらったという方もいらっしゃるかもしれませんね。文書によってあるいは病院によって随分費用が違うのは何故でしょうか？

その訳は医師が患者さまに発行する文書には文書代がかかりますが、「診断書」の交付は保険適用外ですので自費扱いになり料金は地域によって協定料金などがある所があると聞いておりますが、基本的には医療機関ごとに決められています。当院では三五〇〇円です。また医師が専門的な検査や治療の必要を認めて別の医療機関に「紹介状」(正式には診療情報提供書といいますが)を書く際には紹介料がかかりますが、保険の適用になり、保険点数は当院など診療所から病院の紹介ですと二九〇点ですので、紹介料だけですと三割負担の方で八七〇円です。(この他に診察料がかかります)自費扱いと保険適用ということで費用も随分変わってくるのですね。

次にお話するのは、お問い合せも何度かありましたが、交通事故などのけがの治療の費用についてです。社保や国保の健康保険が使えるのか、気になりますね。実は使えるのですが現実には九割の方が自費診療で受け、最終的には医療費は加害

者の自賠償保険や任意保険から支払われます。しかし過失が問われたり医療費が自賠償保険の限度額(百一〇万円)を超えたり加害者が任意保険に未加入だったりすると、十分な補償を受けられないこともあります。なお健康保険を使うときは保険者への届け出が必要です。こうした点を念頭において医療機関にご相談下さい。

これからも保険診療のお話やお会計に関するお話など紹介していきたいと思えます。どうぞ宜しくお願いします。

当院オリジナル石鹸 発売中です

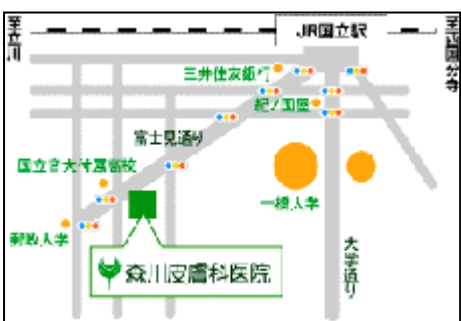
全て天然成分です。

防腐剤フリー、発泡剤フリー、アルコールフリー

全成分：オリーブ油、パーム油、ココナッツ油、イランイラン、にがり

シリーズお肌のケアは今回休ませていただきました

第3土曜午後は休診です
11月19日(土)午後



TEL : 042-572-5183

FAX : 042-572-5112